

妊婦さんにも気をつけてほしい主な感染症



ワクチンで予防できます

●風しん

妊娠早期（妊娠20週頃まで）に感染した場合、赤ちゃんに難聴や心疾患、白内障、発達の遅れなどが生じることがあります（先天性風しん症候群）。必ずしも先天性風しん症候群が起きるわけではありませんが、風しんにかかった記憶がない場合や免疫（抗体）が十分でない場合は注意が必要です。不安な方は、産婦人科医などに相談をしましょう。妊娠初期の検査で風しん抗体価が低い方は、出産後早めに予防接種をうけることをお勧めします。

●麻しん（はしか）

妊娠中に麻しんにかかると、免疫機能の低下により、妊娠中は重症化することがあります。おなかの中の赤ちゃんにも感染すると、流産や早産の原因になることもあります。

●水痘（水ぼうそう）

免疫のない妊婦が初めて水痘に感染すると、妊婦が重症化する可能性があります。おなかの中の赤ちゃんにも感染すると、その時の週数により、眼の異常や皮膚の萎縮などが生じることがあります。

※麻しん・風しんは MR（麻しん風疹）ワクチン、水痘は 水痘ワクチン で予防できます。

妊娠中はこれらのワクチンを接種できないため、家族や周囲の人がワクチンを接種し、妊婦さんについていないようにしましょう。明らかになかったことがない、ワクチン接種歴が不明の方は、妊娠前にワクチンを接種しておくことで安心です。また、出産後早目にワクチン接種をしましょう。



*地域の流行状況は、東京都感染症情報センターや国立感染症研究センターのWeb サイトから確認できます。

*大人の風しん抗体検査、予防接種費用助成を行っています。

詳しくは、世田谷区のホームページ（ページ番号：15598）をご覧ください。



妊娠中も性感染症にかかることがあります

●梅毒

初期には、感染した部位に赤い腫れやしこりができます。痛みがなく自然に治ってしまうことから、感染に気づかないことがあります。おなかの中の赤ちゃんに感染すると、流産や早産の原因になることがあります。また、赤ちゃんの神経や骨に異常が生じることもあります（先天梅毒）。早期の抗生剤治療で完治でき、妊娠中も治療が可能です。妊婦健康診査で感染が認められなかったとしても、妊娠中に感染しないようにしましょう。

●性器ヘルペス

性感染症の一つで、単純ヘルペスウイルスが原因です。外陰部に水疱やかぶれが起こり、一度感染すると体内の神経節に潜伏し、妊娠中に症状が出てくることがあります。出産時に赤ちゃんが産道感染すると、肺炎や脳炎が生じることがあるため、帝王切開が必要になる場合があります。

●性器クラミジア 感染症

若い女性に多い性感染症で、自覚症状がないことが多いのが特徴です。妊娠中に感染し、気づかないまま赤ちゃんが産道感染すると、肺炎や結膜炎が生じることがあります。感染がわかった場合は、抗菌薬で出産までに完治をめざします。

頻度は まれ ですが注意が必要です

●伝染性紅斑(りんご病)

伝染性紅斑は幼児に多い感染症で、風邪症状の後、手や足に赤い発疹がでてきます。患者の咳やくしゃみ、だ液などに含まれるウイルスを吸い込むことで感染します。ほとんどは軽症で1週間から10日で治りますが、妊娠中に初めて感染すると、流産の原因になることがあります。

＊地域の流行情報は、「東京都感染症情報センター」のWebサイトから確認できます。

●サイトメガロ ウイルス感染症

サイトメガロウイルスはどこにでもいる、軽い風邪などを起こすウイルスです。日本では大人の半分以上が感染し、免疫を持っていると言われています。多くの人は感染しても問題がないのですが、妊婦が初めて感染すると、おなかの中の赤ちゃんに感染し、低出生体重や肝機能異常、難聴などが生じることがあります。乳幼児のだ液や尿に排出されるため、食べ残しを食べることは控える、おむつ替え後の手洗いを徹底することを心がけましょう。



●トキソプラズマ

トキソプラズマは加熱が不十分な肉、猫のフン、土などに存在する原虫です。ほとんどの人は感染しても無症状ですが、妊娠中に初めて感染すると、おなかの中の赤ちゃんにも感染し、流産の原因になることがあります。また、脳や目に障害を生じることがあります。

肉は十分に加熱して食べるようにしましょう。生肉を触った後やペットのフンの始末や土いじりをした後は、よく手を洗うようにしましょう。

＊トキソプラズマ、サイトメガロウイルスについては血液検査で抗体があるか確認することができます。心配なことがあれば医師に相談しましょう。

●リステリア症

リステリア菌に汚染された食べ物を食べることによって、発熱や筋肉痛、胃腸炎症状などを起こすことがあります。発症することはまれですが、妊婦は妊娠していない人に比べて20倍、リステリア症になりやすいといわれています。軽いインフルエンザのような症状を示すことがあり、急激な発熱のほか、筋肉痛、関節痛、胃腸炎症状が見られることもあります。無症状の場合もあります。おなかの中の赤ちゃんに感染すると、流産や早産、重症の感染症を起こすことがあります。

ナチュラルチーズ(とくに輸入もの)や生ハム、スモークサーモン、魚や肉のパテ等の摂取は避け、食べる前には十分加熱するようにしましょう。

●ジカウイルス感染症

ジカウイルス感染症はウイルスを保有した蚊に刺されることで感染します。発熱や発疹などの症状が現れますが、無症状または軽症であることが多く、数日で改善することがほとんどです。しかし、妊娠初期の感染は、赤ちゃんの小頭症につながるという報告もあります。妊娠中や妊娠を希望している方は、流行地域への渡航をなるべく控えること、蚊に刺されないよう対策をすることをお勧めします。

＊海外の感染症の流行情報は、厚生労働省検疫所 FORTH(フォース)のWebサイトから確認できます。



＊QRコード集 (うまくリンクが開かない場合は、検索くださるようお願いいたします。)

風しん抗体検査等



東京都感染症情報センター



国立感染症研究センター



FORTH

